平 成 ２０年 ４月 ２５日
日本環境安全事業株式会社

他事業における最近のトラブルについて

〇北九州事業：溶剤蒸留塔サンプル採取装置からの溶剤の漏洩

（1）トラブルの概要

・平成１９年１２月１８日（火）午前１１時５５分頃、処理物を洗浄した溶剤から PCB を分離する溶剤蒸留塔のサンプル採取装置のサンプル採取用チューブから溶剤が漏洩しているのを発見し、直ぐに前後のバルブを閉止して漏洩を止めました。

・漏洩した溶剤は約5リットルで吸着マット等にてすぐに回収いたしました。外部への影響はありません。

・漏洩した溶剤は PCB を分離した後のもので、PCB はほとんど含まれていませんでした。

・この部屋の換気は活性炭を通して外部に出しておりますが、出口で測定した結果 PCB は検出されませんでした。また、部屋の中の PCB 濃度も異常はありませんでした。

・ただちに、市環境局及び消防局へ電話連絡し、各々の現場確認を受けました。

（2）原因と対策

・サンプル採取装置のメーカーによるバルブの分解点検を実施し、今後の対応について検討を行いました。

メーカー点検においては特に異常は確認できませんでしたが、PTFE（フッ素樹脂）製のサンプル採取用チューブの継手については、経年変化により締め付け力が低下する点が指摘されました。

原因は、次の 2 つの要因が重なって発生したと考えられます。

① サンプル採取装置のバルブのシール部に異物が入り、内部漏洩した。

② サンプル採取用チューブの継手の締付力が経年変化により低下し、チューブの繋ぎ部分が内圧により外れた。

・今回の漏洩箇所及び類似箇所におけるサンプリングの作業手順等について、以下の見直しを行いました。

① サンプル採取後にバルブのシール部に異物等が残らないように洗浄液により洗浄する手順を追加。

② サンプル採取用チューブの繋ぎ部分は年に1回緩み確認のため増し締めを行い、3年毎に交換。

③ さらに繋ぎ部分が金属の管を内側に挿入したタイプのチューブへの変更を検討します。

（3）作業の再開等

・12月26日（水）に市消防局の現場確認を受けた上で、当該箇所及び類似箇所のサンプル採取装置の使用を再開しました。

（4）北海道事業の取組

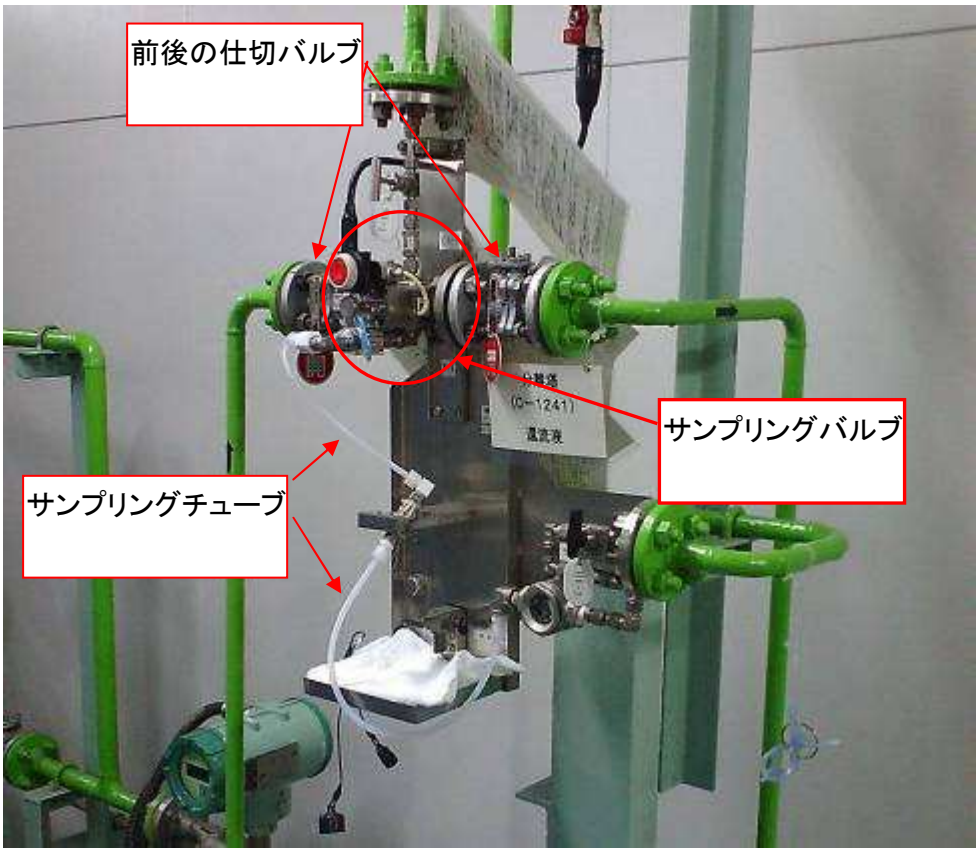
・ 北海道事業所はサンプル採取用チューブにステンレス管を使用しているので繋ぎ部分の増し締めは必要ありません。

・ バルブシール部の内部漏洩について、洗浄液により洗浄する手順は組み込まれています。

以上、北九州事業と同様の事象が起こらないよう対策が実施されています。

以上

別　紙



サンプリング装置全景

チューブ外れ箇所